

学年	教科等	単元名	日時
第5学年	国語科	食材のみりょくを伝えよう	令和6年6月24日(月)

1 本時の目標

推敲することをとおして、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

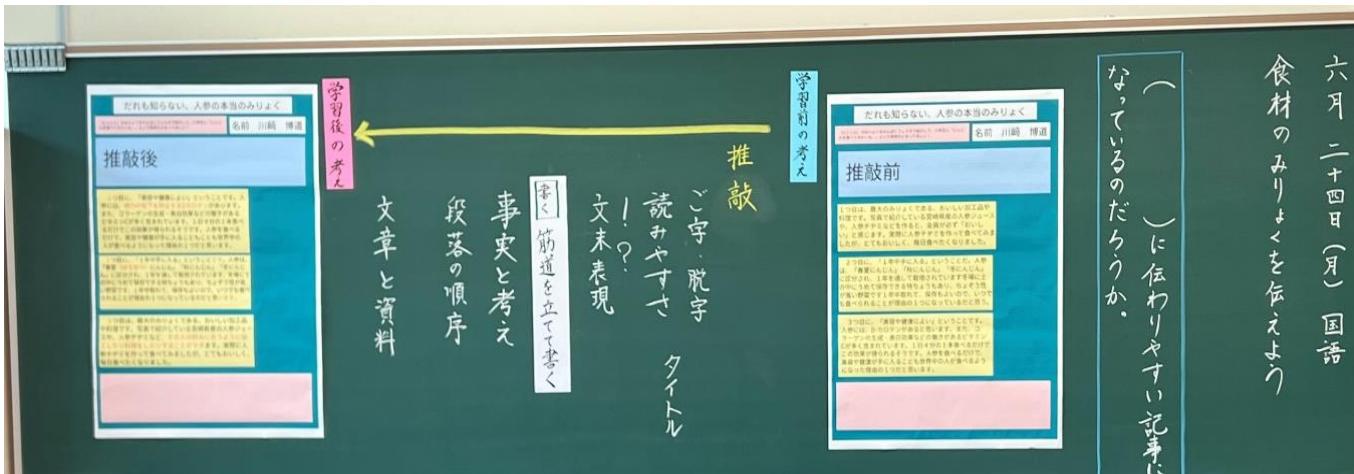
2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て																		
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画における本時の位置付け ○ 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>私の記事は、相手に伝わりやすい記事になっているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記事を書く目的や、記事の読み手を想起したうえで、本時で解決すべきことを明らかにすることで、学習問題を自分事として捉えることができるようになる。 																		
<p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 推敲の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容や表現に一貫性はあるか。 ・ 記事の読み手や目的を意識し、簡単に書いたり詳しく書いたりした方がよい部分はないか。 ・ 事柄の順序を変えた方がよい部分はないか。 ・ 事実と感想、意見とが区別できるようになっているか。 ○ 学習の見通し ○ 本時のゴールイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容や表現に一貫性のない文章や、事実と感想、意見とが区別されていない文章等を含む記事を提示し、音読するよう促す。そこで気付いた改善点を共有することで、推敲の視点をもてるようになる。 ○ 推敲の視点を基に、文や文章を整えた記事が完成となることを伝えることで、学習を見通し、本時のゴールイメージをもつことができるようになる。 																		
<p>3 自分の書いた記事を音読して、記事の文や文章を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や仲間の書いた記事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 記事の読み手 ・ 読み手に伝えたいことの中心 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px; border-bottom: 1px solid black;"> <p>伝えたいことの中心 名前</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; background-color: #d9ead3;">始め</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;">食材の魅力 1</td> <td style="width: 33%;">資料</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td>食材の魅力 2</td> <td>資料</td> <td></td> </tr> <tr> <td>食材の魅力 3</td> <td>資料</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; background-color: #d9ead3;">終わり</td> </tr> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>食材のみりょくを紹介して、相手に「食べてみたい。」という気持ちになつてほしい！</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">魅力 3 調べて分かった事実 事実から考えたこと 構成メモ</td> <td style="width: 33%;">魅力 2 調べて分かった事実 事実から考えたこと</td> <td style="width: 33%;">魅力 1 調べて分かった事実 事実から考えたこと</td> </tr> </table> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p>終わり</p> </div> </div> </div>	始め			食材の魅力 1	資料		食材の魅力 2	資料		食材の魅力 3	資料		終わり			魅力 3 調べて分かった事実 事実から考えたこと 構成メモ	魅力 2 調べて分かった事実 事実から考えたこと	魅力 1 調べて分かった事実 事実から考えたこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読後の子どもの様子に応じて、以下の手立てを講じることで、記事の文や文章を整え、考えを再構成することができるようになる。 <p>【解決の見通しがもてずに悩んでいる子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記事の読み手、記事を展示する時期や場所を確認し、相手に伝わりやすい文や文章になっているかを問う。 ・ 事実と感想、意見はどれかを問い合わせ、確認する。 ・ 事柄の順序について、今の順序のままでよいか改めて問う。 <p>【文や文章を整え終わった子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と記事を音読し合うように促す。 ・ 仲間と記事を読み合う際に、記事の読み手や伝えたいことの中心を、互いに確認するよう促す。
始め																			
食材の魅力 1	資料																		
食材の魅力 2	資料																		
食材の魅力 3	資料																		
終わり																			
魅力 3 調べて分かった事実 事実から考えたこと 構成メモ	魅力 2 調べて分かった事実 事実から考えたこと	魅力 1 調べて分かった事実 事実から考えたこと																	
<p>4 完成した記事（学習後の考え方）と、文や文章を整える前の記事（学習前の考え方）とを比較する。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習後の考え方 ○ 学習前後の考え方の変容 <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・「事実と感想、意見とが区別されるように、文や文章を整えることができたな。」 ・「相手に伝わりやすい記事になるように、筋道立てて書くことができるようになっているな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 完成した記事（学習後の考え方）と、文や文章を整える前の記事（学習前の考え方）とを比較し、内容や表現、順序が変化した理由を問うことで、学習前後の考え方の変容に気付けるようになる。 ○ 簡単に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見とが区別されるように文や文章を整えたりした子どもの姿を取り上げ、全体に伝えることで、本時の学びを実感できるようになる。 ○ 単元の学習をとおして、筋道立てて書くことができるようになったことをふりかえった子どもの発言を取り上げ、共有することで、言葉の力が身に付いていることを実感することができるようになる。 																		

3 本時の評価標準

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (思考・判断・表現) 【記述分析】

4 板書 等



5 指導講評

宮崎大学 中野 登志美 准教授

- 本単元の言葉の力「筋道を立てて書く」を身に付けるためには、「事柄の順序に従った構成」、「伝えたいことの中心を明確にした構成」、「問い合わせ」、「事実と感想、意見」の5つが指導事項となる。この指導事項を教師が評価するための、具体的な評価基準表を作成する必要がある。
- 本時の学習問題は、「私の記事は、相手に伝わりやすい記事になっているのだろうか。」となっていた。例えば、「私の記事は、相手に魅力が伝わりやすい記事になっているのだろうか。」とするなど、「何が」伝わりやすいのかを明確にしておくことが大切であった。
- 小学生の段階で、推敲の重要性を実感してほしい。そのため、日常的に推敲することができる、「推敲チェック表」を取り入れるとよいのではないだろうか。

宮崎県教育庁 義務教育課 川崎 優也 指導主事

- 子どもの言葉を拾い、授業を進めていくことを重視していくとよい。本時では、子どもが「食べてみましたが」の「が（逆接の言葉）」に着目して発言していた。まさに、言葉による見方・考え方を働かせていました。国語科における学級のモデルとしている子どもである。このような子どもの発言を拾い上げ、学級へ広めることで、言葉による見方・考え方を働かせる集団を育成していく。
- 「書くこと」の指導においては、事前に子どもの成果物を確認し、予想される発言や必要となる支援方法を考察しておく必要がある。そうすることで、子ども一人ひとりに合った声かけやかかわりができると見える。
- 子どもに、推敲することの有用性と必然性を実感させることが必要である。そのためには、本時だけではなく、他領域や日常生活のなかで、推敲し、そのよさを実感する場面を継続して設定していくとよい。

6 考察

総合的な学習の時間で育てている食材を題材とし、記事の掲示場所や読み手を設定させることで、目的意識や相手意識を高めることができた。今後は、目的意識や相手意識をさらに高めたうえで学びに向かうことができるよう、成果物の掲示場所や読み手の設定方法について追究していきたい。

本時では、推敲する視点を共有し、仲間と記事を推敲し合う時間を設けた。そうしたことによって、事実と感想、意見とを区別することができるように文や文章を整える姿や、記事の読み手や目的を意識し、簡単に書いたり詳しく書いたりして文や文章を整える姿が見られた。一方で、誤字・脱字を確認して満足する姿も見られ、その要因は、個人での推敲に留まっていたことにあるということが、事後研究会のなかで明らかになった。そのため、仲間と書いた記事を交換する時間を設定するなど、協働的な学びにつながる手立てを追究していきたい。